



Index

- 意思決定支援の取り組み P1
- 今日の郷はこんな感じ P2
- せせらぎ会だより・希望のバトン P3
- 節分の会・看護師の独り言 P4



意思決定支援の取り組み

2025年度より神奈川県意思決定支援実践研修に参加しています。「その人らしい生き方を支えたい」「意思決定支援を基本から学び理解を深めたい」という私たち職員の思いから、意思決定支援の実践的な取り組みを始めています。

意思決定支援とは意思決定に困難を抱える人が、自分自身がしたいと思う意向が反映された生活を送れるように支援することです。**障がい者**にとっての意思決定に基づいた生活とは**同世代の健全市民と同様の生活**といえれば理解しやすいと思います。

そして、同様の「**当たり前の生活を営む権利**」があるということです。

アセスメントの実践では、入居者の数名の方にご協力を頂きました。その方の幼稚園の先生に辿り着きお会いしたり、現在遠い地域でご勤務の当時の県立養護学校の先生に連絡を取らせて頂いたり、幼少時代から今日に至るまで多くの方々に支えられてきたこと、当時のご本人の様子を伺うことで、本人への理解を更に深めることが叶い、個別アセスメントを完成させるに至りました。

ご本人との面談では、「やりたいこと行きたいところ」など、多くの希望及び意思を伺い、ご家族様の同意も頂きながら、実施できる事項を検討し、実行していきました。ご本人から話を伺ったとき、**あらゆる面での社会への参加を希望**されていました。1981年国際障害者年のテーマであった「**完全参加と平等**」の権利、そのものだと思感しました。

近年の社会的環境はバリアフリーや車いす利用者への配慮もありますが、まだまだ、全てに参加できていない社会環境の制限があります。**これを保障する**必要があります。**すべての面での整備が必要である**ことも感じました。福祉職員の責務を考えた時、日々耳を傾け、全ての入居者様のらしい生き方を考え、支援していくことが大切な事と何度も何度も胸に刻みつけていきたいと思えます。

最後に、文章の太文字に気づきましたか。文章を繋げると光友会の基本理念になります。現在、湘南希望の郷が取り組んでいる意思決定支援は、光友会基本理念そのものです。「光友会基本理念」のもと選ばれる施設を目指していきます。

部長 長野英史



散歩



お外に行って、お日様や風を感じて、季節を感じてこようか。と、お散歩に出かけます。お外大好き、歩くの大好きと外の空気を胸いっぱい吸って、皆な爽やかな顔になって「ただいまー！」です。



お風呂



「今日はお風呂だ (*^_^*)」ニコニコ顔で準備します。大きな湯船にしっかり浸かって、職員さんといろんなお話ししながら入ります。ほっこり、サッパリ、いい匂い。今日もたいへんいいお湯でした。



今日の郷はこんな感じ

希望の郷の一日はなかなか盛りだくさんに動いています。廊下を歩いているとあちらこちらで車椅子の住人さんとお挨拶したり、シャカシャカ動く職員さんを目にします。お部屋を覗けば、静かに趣味に没頭している方もいらっしゃいますが、ほとんどのお部屋がお留守です。プログラム活動かな、リハビリかな、お風呂かなと思いつつながら、皆さん元気で動いてるなあ嬉しくなりますね。今日はこの一日の一コマ一コマをお届けしたいとカメラを向けてみました。

リハビリ

硬くなった体をほぐすには、リハビリが大切です。好きなメニューと言えば、「自転車漕ぎかな」とすぐに返答が。手足や腰や背中、ちょっと頑張りも必要だけど、後のすっきり感がいいですね。



プログラム (音楽)

大きな声で歌うのは最高ですね。ピアノにあわせて、リズムに乗って体が勝手にうごいてね。気分も絶好調になりますよ。



ホールでテレビ観賞

ふれあいサロンのテレビの前は大賑わい。皆で見ながら「あーでもない、こーでもない」この会話が本当に楽しそうですね。野球のホームランの時なんて、歓声は球場並みかもです。



せせらぎ会だより

沈黙の天使の梯子春の海 (生)

鎮魂の春「3・11」。あの日あの時、生まれて始めて言語に絶する恐怖を経験した。あの東日本大震災から15年目の春を迎える。「国め、グローバルな協調主義は影をひそめ、自国第一主義が台頭する。実に息苦しい世の中に変容しているのが現実です。

さて、昨今よく耳にする「共感披露」と云う心理学の言葉。本来、医療従事者が持続的に患者に接する中で苦しみ、疲れてしまう現象を言う。近年、コロナ禍や、ロシア・ウクライナ紛争、イスラエル・パレスチナ

問題、米国トランプ政権の強行な外交政策等…。国内外の深刻な報道を日常的に触れる社会にあって、生きづらさを訴える人が増加傾向にあります。そんな状況下、マーチング・セリグマン博士(米国・心理学者)の提唱する。「共感披露」の処方箋の一つとして、挙げられている「楽観的に物事を考える」こと、すなわち「楽観主義」の人生論が再評価されています。「楽観主義」をひらたく言えば「希望」のことです。いつ、どこで失敗したり、苦しい経験をして、「行動」によって必ず変えられるという信念を「楽観主義」と定義しています。21世紀の現代に巣くう病理の処方箋は、そんな所に有るのかも知れません。三月・四月いよいよ春の到来。新年度は湘南希望の郷も開所40周年の佳節を迎えます。

文責・自治会(K.I)



湘南希望の郷と私

理療担当 叶 政勝

野池職員からバトンを受けました。健康課理療担当の叶政勝と申します。

私は、昭和61年春、恩師でありこの光友会をつくられた五十嵐光雄氏が勤務されていた横浜市立盲学校で鍼灸マッサージの資格をとり、同年5月からここ身体障害者療護施設湘南希望の郷に全盲の職員ということで就職させていただきました。

光友会は各施設に、視覚・聴覚・肢体(手足)の障害を持つ職員を採用しています。

私はこの春で勤続40年になります。その多くは、湘南希望の郷・ケアセンターの利用者の方々に、鍼灸マッサージを施し、皆さんの健康の手助けをさせていただきました。

郷の住人さんからはいつも生きる力と元気をもらい、歴代の施設長をはじめ、特に同僚の職員には毎日の業務を助けていただいたり、自分ができない仕事も進んでくださったりと皆様には心から感謝を申し上げます。またこうして私にしかできない仕事の役割をいただき、やってこれたのは、働きがいのある職場だということだと思えます。

湘南希望の郷の歌の中に、「希望の郷は我が城よ。明るく生きる仲間たち我ら我らがマイホーム」とありますように、これからものびのびと楽しい郷を創って行きたいです。

次のバトンは、丸山芽里職員につなぎます。

乾燥注意報にご注意を



「今日は肌がカサカサしちゃうわ。」の感触通り、冬になるとよく乾燥注意報がでます。最小湿度と実効湿度(木材の乾燥度合い)の2つの湿度指標が基準値を下回ると出されるそうですが、地域によって数値は異なるのか。(関東圏は最小湿度25%実効湿度50%以下)

お肌の管理も大切です。が、山火事のニュースも多々ありました。一人一人が火の用心を忘れずにですね。



節分の会



1月28日(水)今年も節分の豆まきが行われました。1月に入ってから寒波が何回もきて、北の地域も豪雪だというのに暦の上では「春」になります。春の心地良さを思い浮かべると、心も少し柔らかくなるようで、節分の会も実に楽しくパワー全開で、皆はしゃ

ぎまくりです。鬼に扮した職員めがけて、新聞紙を丸めた豆を思いきり「鬼は外!」と投げました。追いかけて、追いかけて。逃げて逃げて。ちょっと汗をかきながらの追従劇は、大きな笑い声と共に皆さんの心に中に溜まっていたもやもや(ストレス?)も一掃してくれますね。これこそ鬼退治ですか、と行事後の穏やかな笑顔と和やかな会話に癒されています。



◆3・4月の予定◆



健康課より

3月の予定

藤沢病院 石井 Dr.	5日(木)
厚誠会歯科検診	3日(火) 10日(火) 17日(火) 24日(火)
御所見病院 手島 Dr.	11日(水) 25日(水)

4月の予定

藤沢病院 石井 Dr.	2日(木)
厚誠会歯科検診	7日(火) 14日(火) 21日(火) 28日(火)
御所見病院 手島 Dr.	8日(水) 22日(水)



編集後記

昨年ソロ活で念願だったキャンプ、韓国旅行にチャレンジしました。未知の領域に踏み込むことは不安があり、躊躇していたところもありましたが、失敗やトラブルがありながらも終えてみると、この歳でもまだまだやれる! という「年齢の壁」の打破と、新たな世界を手に入れた(気がする)一年となりました。今年は何に挑戦しようかな? と毎日思いを巡らせています。

T・Y



看護師の独り言

忘れられないエピソード③

○アルコール依存症も重症となると入院

してアルコール分をシャットアウトした生活にするわけです。入院をして少し時間が経つと、禁断症状が出てきて体がアルコールを欲しがって苦しむようです。そんな方がびっくりするようなことを考えます。ある時は買ってきてもらったヘアトニック(アルコール分含む)を飲んでいて、驚いて取り上げたこともありました。またある時は点滴を入れている自分の腕をチュウチュウ吸っているところを見かけて、何をしているかと思えば、注射針を保護している消毒綿にかぶりついているのです。

アルコールの魅力わからないわけじゃないですが、依存症もここまでくると怖い気がします。

○心臓モニターを常時付けていた患者さん、ある日のことハートレートモニターがピーと一本筋になってしまいました。「心肺停止」緊張が走り即座に看護師はお部屋に駆け付けます。ところが、ご本人の姿がありません。いったいどうしたのかとナースステーションは大騒ぎとなるわけですが、小一時間程してこの患者さん、寿司折りをぶら下げて「やあ心配かけたね」と謝りに来られました。病院の前のお寿司屋さんにどうしても行きたかったとか。言い分は「心臓モニターの電波が届かなかったんだね。」こっちの心臓の方がバクバクですよ。